

R1年度 事業報告

項目	具体策	実施方法等
(1)子育てに悩む人に寄り添った相談援助	①来園による相談 ②電話による相談 ③訪問による相談 ④進路相談・学習支援 ⑤心理士によるカウンセリングの実施 ⑥心理士による心理検査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士による子育て来所相談を実施した。 ・保育士による子育て電話相談を実施した。 ・保育士による子育て家庭訪問を実施した。 ・近隣保育園の園庭開放へ訪問し、来園者へ子育て相談を実施した。 ・中学生保護者へ学習支援・進路相談を実施した。 ・引きこもりや不登校児童、家庭内暴力の、児童や保護者への相談を実施した。 ・心理士によるカウンセリングを実施した。 ・10/1～知能検査、発達検査を実施した。 <p style="text-align: right;">(10/1～実績 43名)</p>
(2)親しみやすい相談窓口づくり	①気軽に相談できる明るい窓口づくり ②SNS やパンフレットによるPR	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場を考慮し誠実な相談業務を図った。 ・行政、幼稚園、保育園、学校、障がい児施設、病院へおよびチラシ・パンフレットを、配布した。 ・ホームページでの情報発信と問い合わせ窓口を開設した。
(3)社会資源と連携した相談援助	①児童相談所との連携 ②廿日市市との連携 ③地域との連携 ④関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・西部こども家庭センターと連携した。 ・廿日市市子育て応援室、生活福祉課、教育委員会と連携した。 ・廿日市市要保護児童対策地域協議会へ参画した。 ・大野地区民生委員児童委員協議会と連携した。 ・廿日市警察署、学校・幼稚園・保育園・病院、障がい者入所施設、ハローワーク等と連携した。 ・児童養護施設・母子生活支援施設と連携した。
(4)人材の育成と職員間の連携	①職員研修の実施 ②ケース検討会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの充実と外部研修へ参加した。 ・一つひとつのケースを検証して、ケースを蓄積し、ソーシャルワーカーとしてのレベルアップを図った。

R2年度 事業計画

基本理念	利用者の最善の利益のために
園訓	やさしく あたたかく
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩む人に寄り添った相談援助を行う。 ・親しみやすい相談窓口づくりをはかる。 ・社会資源と連携し、より良い援助を行う。 ・人材の育成と職員間の連携をはかる。
年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、学校との連携の強化と心理検査の積極的な対応

【事業計画の内容】

事業計画は、上記の基本理念や方針を踏まえ、次の項目を中心に取組む。

項目	具体策	実施方法等
(1)子育てに悩む人に寄り添った相談援助の実施	<ul style="list-style-type: none"> ①来園による相談 ②電話による相談 ③訪問による相談 ④カウンセリングの実施 ⑤心理検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員による子育て面談を実施する。 ・相談員による子育て電話相談を実施する。 ・相談員による子育て訪問面談を実施する。 ・心理士によるカウンセリングを実施する。 ・心理士による知能検査、発達検査等を実施する。
(2)親しみやすい相談窓口づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①気軽に相談できる明るい窓口づくり ②相談窓口のPRを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場を考慮すると共に誠実な相談窓口づくりを図る。 ・行政、学校、病院等や会合等においてコスモスのパンフレットを配布する。 ・ホームページによる情報発信と問い合わせ窓口を設置する。
(3)社会資源と連携した相談援助	<ul style="list-style-type: none"> ①廿日市市との連携 ②地域との連携 ③関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・廿日市市子育て応援室と連携する。 ・廿日市市要保護児童対策地域協議会へ参加する。 ・大野地区民生委員児童委員協議会と連携する。 ・学校、保育園、病院等と連携する。 ・児童養護施設、母子生活支援施設と連携する。
(4)人材の育成と職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ①職員研修の実施 ②ケース検討会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの充実と外部研修へ参加する。 ・一つひとつのケースを検証する。 ・ケースを蓄積し、ソーシャルワークを充実させる。